

令和4年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立山王小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・「読むこと」の学習において指示語が示す内容を丁寧に確認したことで、正確に読む力を身に着けさせることができている。
- ・必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことの内容を捉え、自分の考えをもてるようにしたことで、相手の話を聞き取ることや話し合いを進めることができている。

(2) 課題

- ・自分の考えを書くこと、文の構成を考えて文章を書くことに課題が残った。
- ・指示語の理解等が確かなものとなっておらず、課題が見られた。
- ・全体的に見て記述式の問題の無回答率が高い傾向にある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ○領域・内容別の正答率はすべての項目において、区の正答率と全国平均を上回っている。 ○領域「話すこと聞くこと」では、目標値は上回っているが、他の領域と比べて目標値と正答率の差が一番少ない。 	/	/
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ○領域別では、すべての項目で平均を上回っている。 ○内容別の正答率では、「言葉の学習」が最も低く、目標値を9ポイント下回っている問題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○領域・内容別の正答率はすべての項目において、区の正答率を上回っている。 ○領域「話すこと聞くこと」では、全国の平均を0.1ポイント下回っている。 ○内容「文章を書く」では目標値を下回っている。 	/
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ○領域別正答率はすべての項目において目標値、区の平均正答率を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能においては目標値、区・全国の平均を上回っている。 ○領域「話すこと・聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ○領域「言語についての知識・理解・技能」の正答率は、目標値、区・全国平均共に上回

	○内容別の正答率では「書くこと」の正答率が目標値と比較して5ポイント上回っていたのが、最も低い結果であった。	こと」では、目標値を12ポイント上回っているものの、他の領域に比べて最も平均正答率が低かった。	っている。 ○領域「話すこと・聞くこと」では、目標値より12ポイント上回っている。
--	--	---	--

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○学習済みの漢字を文章の中で正しく使うことが難しい。 ○新しく学んだ語彙の習得や活用が苦手な児童が多い。 ○読書が好きで集中して取り組める児童、進んで文を書く児童もいるが、個人差がある。	○自分で話の内容を組み立てて分かりやすく話したり聞いたりすることが難しい。 ○話し手が伝えたいことや、自分が聞きたいことの中に捉えながら聞くことが難しい。 ○文章のまとまりに気を付けて適切に段落を使って文章を書くことが苦手な児童がいる。	○読書が好きな児童が多いが、読む内容に偏りが見られる。 ○学習課題に対して、自分の考えをもち、友達に積極的に伝えたいと思う児童が少ない。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○全ての問題で目標値を上回り、概ね良好である。 ○漢字を書く問題が苦手な児童がいる。 ○「言葉の学習」の問題に対する正答率が低い。	○全ての問題で目標値を上回り、概ね良好である。 ○聞き取り問題で自分の考えを書く問題が苦手な児童が多い。	○目標値、区・全国の平均正答率を上回り良好といえるが、3観点の中では平均が最も低い。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うように指導する。また、最後まで話を聞く態度を育てる。 ○筆順に沿って丁寧に書写する力を育て、文章の中で既習漢字を使えるようにする。	○伝えたい事柄について、順序を考えて話すことができるように、話型を示しながら指導する。 ○文章の構成で、「中」の部分詳しく書くために、助詞の活用や文章の構成を考えさせる。	○楽しみながら読解力を高めていくために、カード等を活用して読書に親しめるようにする。 ○学習課題に粘り強く取り組めるように、学習計画を児童と話し合いながら作成し、見直しをもてるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ○国語辞典を日常的に使用し、語彙を増やしていく。 ○一文が長くなりすぎないように声掛けをし、主語述語の関係や、修飾と被修飾との関係などを意識した文章構成を意識させる。 ○既習の漢字の正答率が低いことから、復習を適宜取り入れ、今年の漢字を練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことを中心に捉え、自分の考えをもてるようにする。 ○一人一人の感じ方や意見の違いに気付くところを目指し、物語を読んだ感想や、説明文を読んで考えた自分の意見を伝え合う活動を取り入れる。 ○書いた文章を読み返して間違いを直す力を身に付けさせる。 ○自分の考えについて「何文字以内で」という条件に合わせて書くことに慣れる活動を多く取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館と連携して単元ごとに並行読書を行い、幅広く読書に親しめるようにする。 ○学習課題を明確にして見通しをもたせ、課題解決に向けて友達の考えを聞きながら自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。 ○児童のICTに対する一定の効果を狙い、多く活用していく。ただし、書く活動とのバランスをとり、ノートとの使い分けを意識し、思考と記述の場面を鑑みたくえで状況設定を行う。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ○指示語を適切に扱えるようにするために、「読むこと」の学習において、指示語が示す内容を丁寧に確認し、正確に読む力を身に付けさせていく。 ○文章を書く学習では、全体の構成を考え、初め・中・終わりなどの段落の役割を意識しながら書くことができるように指導する。 ○漢字を正しく読む力をつけるために、書き取りの小テストだけでなく読みの小テストを授業で行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを記述する時間を確保し、読み直したり書き直したりして推敲し、表現力を高める指導を行う。 ○目的や意図に応じて、文章を書く機会を増やし、自分の考えを表現する活動を積み重ねられるようにする。 ○朝学習の時間を使って、書くことを楽しみながら、慣れ親しむことができるようにする。また、文の構成を意識できるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童がもった疑問をもとに学習計画をたてることで、児童が主体的に課題を解決できるようにしていく。 ○児童同士が話し合う時間を意図的に設定し、他者の意見を受け入れ話し合う力を高めるとともに、学び合うよさを味わい、集団で学ぶ意欲を高められるようにする。 ○日常的に読書に親しみ、言葉や国語への関心を高めることができるよう、読書学習司書と連携し、教室環境の整備や図書室の活用を通して、いつでも読書に親しめるようにしていく。